

題 言

### World Engineering Congress

世界各國の工學者及び工業關係の權威者數百名を會して萬國工業會議は愈々東京に於て開催せられた。會議は十月二十九日、總裁秩父宮殿下臺臨の下に日比谷公會堂に於て開會式を舉行し、引續き三十日より十一月七日まで帝國議事堂に於て各部の研究論文を發表せらるゝ筈である。

會の内容及び進行の豫定に就ては既に度々報導した通りであるが、斯る世界的の權威ある會議を我國に開催する事は空前の事であつて、我々工事關係の技術者も其研究的盛儀を大に期待するものである。(記事参照)

### 明々堂眼科病院

の工事はビルディングとして大を誇るべき處はないが、混凝土工事として先づ注意をすべきである。

鐵骨をウエルドしたと言ふのでもない、混凝土にインデーター・パツチャー、ブランクを使用したと言ふのでもない。唯あれ丈の小工事にもコンクリートの合理的施工法が經濟的に小規模に實行された事は地震に對しても、保安に對しても大に意を強ふするものである。

### 淺草以北の工事盛觀

心地よき地下鐵電車を雷門に乗りすて、直ぐ東に東京市の東橋工事、其左に東武鐵道の大ビルディング工事、其に隣連して同社の隅田川横斷橋工事、少しく上に東京府の白鬚橋工事(百十尺の井筒沈下)等、隅田川の上流は將に工事の盛觀を呈せんしつゝある。

### 神通川の經濟的架桁工事

富山縣上新川郡笹津附近の鐵道省飛越線第二神通川橋梁は長岡建設事務所の直營工事を

以て十一月中に着手し年内に竣工の豫定であるが、デッキ型 60・96m 二連を會て九州白川橋梁架設工事に使用したる起重機に簡易なる足場を併用して、經濟的なる架桁法を實施せんとするものである。同工法は本年夏既に第一神通川橋梁に施行して 150 呎桁組立を四日間になしたる記録を有するものである。

### 十月一日

一ツ橋學士會館に故廣井勇博士の一週忌追悼會を催され、また十月十二日には小樽市公園に於て廣井博士の胸像除幕式が舉行された。(記事参照)

薨後僅かに一ヶ年にして既に此の事あるは餘りに博士の功を怠いだ感じてあるが、これ又博士遺徳の然らしむる處で自然の行方であると思ふ。然し實際の偉人と言ふものは死して直に其偉大さを發揮するものではない、年處を経るに従つて愈々益々其芳名を傳へられるものである。廣井博士の如きは確かに此類の人である。

追悼會の席上で大島正健博士も古歌を以て此意味を述べられた。

廣井博士傳を草しつゝある我々は尙ほ文字に書き殘し得ない尊いものがある事を感じる。斯は形なくしても偉大なる響きを何處にか傳へられるものと思ふ。

### 二十二歳の青年技師

二十二歳の日本の一青年が米國政府の或工事に雇はれ、外業に疲れた身を以て、夜間遅くまで下宿の燈下に勉強してをつた事は

『國に残した母の事を思へば』

さ、中々ボンやりしてゐられなかつた。此の青年廣井勇は單に母の爲めばかりではない、日本の國の爲めに、世界の工學界の爲めに可なり大きな者を殘した。

我々は國家の現状に照して今最も廣井博士の偉大さを思ふものである。